

# NASAへ届け アプリ開発

**串本** 米航空宇宙局(NASA)の宇宙や地球環境などに関連したオープンデータを使い、アプリケーションやウェブサイトの開発を競う「NASA Space Apps Challenge KUSHIMOTO」が7、8日、串本町潮岬の「県立潮岬青少年の家」で開かれた。 【橋本陵汰】

【橋本陵汰】



アプリ開発などに挑んだ参加者ら

## 中高生が挑戦 世界各地で課題競う



アイデアを出し合う参加者ら。いずれも、串本町潮岬の県立潮岬青少年の家で

各会場の最優秀作品はNASAに送られる。さらにその中から優秀な作品が選ばれ、開発したグループはNASAに招待されるという。

えてくれる検索サイトを作成したグループが選ばれた。メンバーで大阪大2年の中村凌さん(20)は「トラブルがあつたときに臨機応変に対応する能力や決断力が選ばれた」と話していた。

世界各地で同時に行われ、世界79カ国約400会場、日本からは6会場が参加。民間口ケット発射場「スペー  
スポーツ紀伊」がある串本町から地球や宇宙の未来を切り開く斬新なアイデアを生み出しあらわすと、串本会場でも5回目の開催となる。中学生や高校生ら7グループ計27人がアプリ開発などに挑んだ。

つてミッションに沿ったアプリなどを開発するか、グループでアイデアを出し合った。その後、データを使用しながら開発に挑み、夜通し作業をするグループもあったという。

連したクイズなどに答えながらストーリーを進めていくゲームの開発について発表するグループなど、さまざまなものアイデアが生み出されていた。